

ごあいさつ

結核予防会は、結核で命を落とす人が多かった昭和14年に設立されました。複十字シール運動は、1952年に結核予防を国民の協力を得て進めていくこうという趣旨の下に始まりました。

2022年3月の世界結核デーのテーマは「Invest to End TB. Save Lives.(結核終息への投資を。命を救おう)」でした。昨今の新型コロナウイルス感染症の流行は世界の結核対策にも大きな影響を与え、結核患者の発見数は減少したものの、今回10年以上ぶりに結核による死者数が増加しました。

世界的なレベルで見ると結核対策への財源は必要額にはるかに及ばない状態が続き、多くの患者が必要な診断や治療を受けることを出来ない状況にあります。

ところで、コロナ終息後、国際的な人の往来が増え、低まん延に近づいている我が国の結核対策にも影響を及ぼす可能性があります。

コロナ感染を契機に感染症の重要性が再認識されています。そうした中、結核予防会に対する国内外の期待は更に高まっております。是非これまでと変わらず、複十字シール募金への皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



公益財団法人結核予防会
理事長 尾身 茂

結核予防会とは

日本で結核がまん延していた昭和14年に内閣総理大臣に賜った皇后陛下の令旨に基づき設立された公益法人。設立以来、日本と世界から結核をなくすための活動を続けています。



運動のはじまりと複十字シール

1904年にデンマークでクリスマスシールが発行され、その益金は結核に苦しむ人々のために役立てられました。シールを使った募金活動は世界に広がり、現在も各国で行われています。結核予防会は1952年に最初のシールを発行しました。

複十字シールには、健康を願うメッセージが込められています。募金をいただいた方にシールを差し上げています。シールをお使いいただくことで、運動の輪が広がります。

令和3年度 募金報告

募金収入

1億6,949万6,607円

事業費

1億5,705万961円
(諸経費除く)

調査研究 9万2,072円

事業助成
2,048万8,163円

国際協力
5,817万4,610円

普及啓発
7,829万6,116円

使途
内訳

税の優遇措置

募金は、寄附金控除の対象となり、税制上の優遇措置を受けることができます。

表彰制度

年間個人50万円、法人100万円以上の募金をいただいた方に、結核予防会の規定により、結核予防会総裁名の感謝状の贈呈がございます。

複十字章は世界共通の結核予防運動のシンボルです。

問い合わせ

複十字シール募金は下記にて受け付けています。
下記まで、お気軽にご相談ください。

公益財団法人結核予防会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-3-12
<https://www.jatahq.org>

0120-416864
(事業部募金推進課)



結核

TB Free World 2022
のない世界へ
未来を変えよう

複十字シール運動イメージキャラクター
たすけあインコ

複十字シール運動



結核をなくすための
複十字シール募金に
ご協力ください



主催: 公益財団法人結核予防会
Japan Anti-Tuberculosis Association (JATA)

後援: 厚生労働省・文部科学省・公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会

みなさまの
あたたかい支援を
お待ちしています。//



結核のない世界へ 未来を変えよう



Japan
での活動

患者数が減少し、結核への関心が低下しているため、普及啓発に重点をおいています。



大型ビジョンで啓発動画を放映



健診会場でリーフレットを配布



ポスター・パンフレットなどの
教育広報資材の作成、配布



オンライン開催された
コロナ禍での
結核予防全国大会

国内の結核制圧活動で培った技術、知識、経験を活かして、
世界の人々を結核から守るために国際協力に取り組んでいます。



医療従事者への技術指導



患者さんを支えるボランティアの育成



今年度の複十字シールに
込められた思い



今年度の複十字シールは、
人々や動物たちの楽しい日常が
描かれています。
コロナ禍の生活で
改めて気づいた当たり前の
「日常のしあわせ」を
テーマにしました。

World
での活動

世界
での活動

募金による
主な
活動地域

- ・ザンビア
- ・カンボジア
- ・ネパール
- ・ミャンマー



戸別訪問して啓発活動をする結核ボランティア

結核とは？

結核は
“人から人に
うつる病気”です。//

結核は過去の病気ではありません！

結核菌を吸い込むことで感染する病気です。
免疫力が弱まっていると発病しやすくなります。
毎年健康診断を受けて、長引く咳・微熱など
気になる症状がある時は病院に行きましょう。
日本でも世界でも、正しい知識を持つことで
救える命があります。



結核の「いまとこれから」について、
一緒に考えてみませんか？

日本の結核DATA (2020年)

結核を発病する人
年間 **12,739人** | 結核で失われる命
年間 **1,909人**

傾向 1 患者の高齢化

かつて日本で結核が国民病であった時代に罹患し、高齢化による
免疫力の低下、さまざまな健康問題などが結核発病を促しています。

傾向 2 外国生まれの患者増

近年の世界的な人口移動とともに、留学・就業で結核罹患率が高い途上国（アジア）
から多くの若年層が入国しています。

世界の結核DATA (2020年)

結核を発病する人
年間 **約1,000万人** | 結核で失われる命
年間 **約150万人**

傾向 1 総人口の約1/4が既に結核に感染

2020年、結核は新型コロナウイルスに次いで感染症の死因の
第2位となりましたが、それまでは第1位を占めていました。

傾向 2 アジア・アフリカでの深刻化

保健医療・結核対策の遅れや貧困から、多くの人が治療
できる病気である結核に苦しみ、命を落としています。

